

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

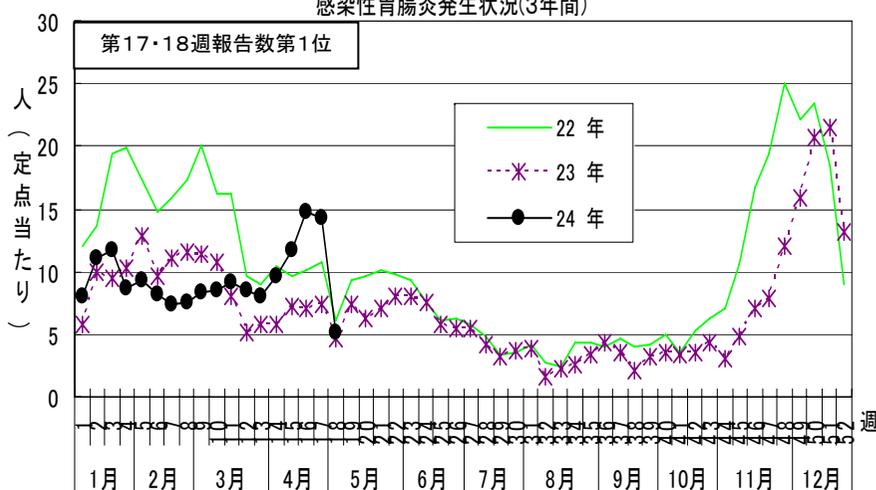
平成24年4月23日（月）～4月29日（日）〔第17週〕及び平成24年4月30日（月）～5月6日（日）〔第18週〕の感染症発生状況

第17週で定点報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)インフルエンザ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

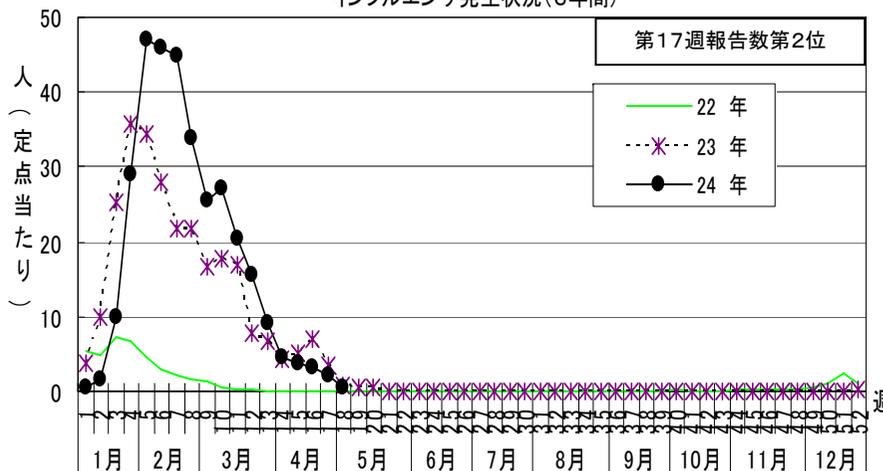
第18週で定点報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)水痘 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

ただし、第17・18週については、ゴールデンウィークが重なり、多くの医療機関が休診であったため、全体的に患者報告数が少ない状況となっています。そのため、今後の発生動向に注意する必要があります。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



インフルエンザ発生状況(3年間)



油断大敵 ～感染性胃腸炎・食中毒に注意しましょう～

これから暖かい季節に入り、みんなで楽しくバーベキューなどを楽しむ方も多いと思います。ただし、肉の生食や焼肉などでの加熱不足を原因とする食中毒事例や、下痢症患者からの2次感染が発生することがありますので注意が必要です。

左のグラフのとおり、第16・17週において下痢を主症状とする感染性胃腸炎患者数が増加傾向にありますので、次の注意点に気をつけて対策に努めましょう。

～食中毒を予防するために～

1. 細菌などをつけない
→こまめな手洗い
 2. 細菌などを増やさない
→食品の衛生的な取扱い（冷蔵保存など）
 3. 細菌などを殺す
→生肉等の加熱（85℃で1分以上）
- ※上記の食中毒予防の3原則を徹底しましょう。

～患者から2次感染しないために～

1. こまめに手を洗う
2. 患者の便からの感染に注意する（オムツ交換時は要注意）
3. 便のついた衣類・寝具などの消毒
4. 患者は入浴やプールを控え、シャワーですませる

〔生や加熱不足の肉を原因とする主な食中毒菌〕

腸管出血性大腸菌
(O157, O26, O111など)
主な症状：激しい腹痛、下痢（水様便、血便）、おう吐等
潜伏期：2～9日間（平均3～5日間）

カンピロバクター
主な症状：下痢、腹痛、発熱、吐き気、おう吐、頭痛、悪寒、倦怠感等
潜伏期：2～5日間